

2030年、さらにその先の未来を創る

陸・海・空をまたぎ、時代ごとの社会課題に应运えてきた川崎重工。

2020年からは「グループビジョン2030」の下、「安全安心リモート社会」「近未来モビリティ」「エネルギー・環境ソリューション」を3つの注力フィールドと定め、さまざまな取り組みを進めています。私たちはこれからも、社会と人の可能性を拓き、私たちにしかできない解を実現していきます。



私たちの「解」
その詳細は当社オウンドメディア
「ANSWERS」をご覧ください。

2024年11月 東京・羽田にソーシャルイノベーション共創拠点 CO-CREATION PARK – KAWARUBAを開設



開所式の様子

KAWARUBAの事業テーマ

水素・カーボンニュートラル



近隣地域を中心に社会実装を進め、脱炭素社会の実現を加速

▶地域に根差した社会実装を推進

ソーシャルロボット



介護、ビル管理、空港管理など、具体的なソーシャルロボットの用途開発を実施

▶ヒトとロボットが共生する社会実装を推進

社会課題解決に挑戦する意志が集う。 「KAWARUBA」は、共創を通して新たな未来を生み出していく。



企画本部 経営企画部 戦略課 担当課長

伊丹 光代

当社が長年培ってきた社会課題解決のDNAを基軸に、つぎの社会をつくっていく、そのために川崎重工自身も変わっていく、という意味を込めて「KAWARUBA」(カワルバ)と名付けられました。KAWARUBAは、新たな社会課題の解決に向けた第一歩を踏み出す場所です。同時に、新しいソリューションを社会実装していく上では、新しい技術やアイデアが社会に受け入れられ、活用される必要があります。KAWARUBAは、そうした「社会受容」を醸成していくことも推進しています。

企画本部 経営企画部 戦略課長

坂根 雄斗

KAWARUBAでは社会実装に向けて、国や自治体、企業の枠組みを超えたプロジェクトが数多く進行しています。水素・カーボンニュートラルやソーシャルロボットなどの具体的なテーマを掲げ、社会実装にフォーカスしているため、「ここでなら実現できるのではないか」と多くの共感を生み、注目を集めています。変化の激しい昨今において、共感を起点として挑戦心を持つ多様な方々と共創し、新しい社会を作っていきたいと思っています。



2025年4月～10月
日本国際博覧会
(大阪・関西万博)に出展

「移動本能」を満たせ！
未来のモビリティコンセプト



コーポレートコミュニケーション総括部 大阪・関西万博推進課長

村上 敬祐

「グループビジョン2030」で掲げる注力する3つのフィールドは、言い換えると、遠隔操作などを可能にする「ロボティクス」、私たちの暮らしを豊かにする「モビリティ」、そしてクリーンエネルギーとして期待される「水素」ということになります。万博で描く2050年代の世界では、ロボティクスやモビリティが水素で動くのが当たり前になっていると考え、「ロボティクス×モビリティ×水素」という川崎重工ならではの強みを生かして「移動本能」を表現しました。



CORLEO

「Fun to Ride」を大切にした
新カテゴリーのパーソナルモビリティ



社長直轄プロジェクト本部 SAFE ADVENTURE 事業開発チーム チームマネージャー

天辰 祐介

「どこかへ行きたい」——「移動本能」は理由なき移動への欲求を表しています。乗馬やモーターサイクル愛好家に向けた新感覚モビリティの提案として「CORLEO」が誕生しました。「CORLEO」はオフロード向けの4脚型モビリティで、ホイールではなく「脚」を採用することにより、今まで行けなかった凸凹の地形でも誰もが安全に道なき道を走り抜けることができます。また、「CORLEO」と「ALICE SYSTEM」は、いずれも水素をエネルギーとしたモビリティ。Kawasakiが掲げる水素社会の未来像を体現すべく、水素発電機が搭載されています。



O'CUVOID

エンジン・発電機・制御機器を
一体化した革新的な発電ユニット



社長直轄プロジェクト本部 近未来モビリティ総括部
担当課長

井上 健輔

現代の交通手段の中で移動本能を阻害しているものは何か？ 今ある公共モビリティの課題を一気に解決してくれるのがALICE SYSTEMです。乗り換えなどの手間をなくし、移動中にも不自由なく快適に過ごせる公共交通システムができれば、あらゆる背景を持つ人々の移動本能を満たすことができます。陸・海・空全てのモビリティを扱ってきたKawasakiだからこそ提案できる、実現可能性を考え抜いたアイデアになったと思っています。

